

1、はじめに

皆さん、おはようございます。

職員のかがみである理事者の皆様にとって、挨拶は人間関係の基本だと思いますので、もうちょっと大きな声でお願いします。皆さん、おはようございます。ありがとうございます。

吹田新選会、足立将一でございます。通告に従いまして個人質問させていただきます。

今回、お伝えしたいことはただ一つでございます。この場、この吹田市議会という場は、吹田市の政策を左右する場でございますから、誤った情報によって誤った判断が下されれば、市民が不利益をこうむることになるということを肝に銘じて、改めてこの場に立たせていただきました。私たち自治体行政を預かる者、あるいは自治体行政をチェックする者は、正しい情報が何かということを見抜く目を持たなければならない。そして、仮に誤った選択をしてしまった場合にも、君子は豹変すと言いますから、素直に間違いを認め、直ちに正しい政策判断を行っていくべきであると考えております。

そんな中で、今回質問させていただくのは、子宮頸がんワクチンについてでございます。

この子宮頸がんワクチンは、サーバリックスとガーダシルの2種類があり、前者は2009年10月、後者は2011年7月に薬事承認され、増加傾向にある若年者子宮頸がん患者減少のための有効な手段として宣伝され、接種が推奨されました。さまざまな自治体でも、助成金あるいは全額無料で中高生に接種させ、日本全体で子宮頸がんワクチン接種推奨により、子宮頸がん撲滅を推進しようという流れがございました。そのかいあってか、平成25年4月からは予防接種法が改正され、この2種のワクチンも定期接種化となり、12歳から16歳の女子は無料で接種が可能となりました。

しかし、2種のワクチンの承認からしばらくたった現在、そのワクチンの有効性や副反応に疑問の声も上がってまいりました。そこで、今回は、現在子宮頸がんワクチンについてどのような情報があるのか、そしてそのような情報を持った際、我が市はどのように対応するのかということで質問を行ってまいります。